

J A C I C 「地質調査整理要領」資料の注意点

研修委員会

1. はじめに

このたび、東北地質調査業協会は全地連から「地質調査整理要領（案）」に基づく平成3年度の地質調査整理資料のMT化（磁気テープ入力）に伴う資料のチェック業務を委託されました。

この業務は財団法人日本建設情報総合センター（J A C I C）が建設省東北地方建設局東北技術事務所から委託を受けた「平成4年度技術資料文献抄録等登録業務委託」の内、上記のチェック業務を全地連に依頼してきたもので、東北の分は東北地質調査業協会で行うことになったものです。

東北地方の地質調査業社の整理した資料をチェックした際、気がついた点及び今後注意して欲しい点をまとめてみました。

2. チェック業務でミスが多かった点

2. 1 様式A（一般的事項）について

最も記入ミスが目立った様式で次に示す5項目に集約される（以下の文章中、①②等の番号は様式Aの項目Noです）。

1) 項目 ④ 孔番

調査孔数とは→①の調査件名における調査孔の総本数です。

調査孔番は →調査時に付した総本数に対するNo（通し番号）です。

※ 項目⑥のボーリング番号の通し番号とは違います!!

2) 項目 ⑤ 整理番号

この中では西暦、組織コード及び資料番号を記入するようになっていますが資料番号は建設省内部の番号（例えば河川、道路などの区分をする番号）であるので記入する必要はありません。

3) 項目 ③ ボーリング番号

1次、2次、3次コードの次にある通し番号は1/25,000の地形図を

経度で10等分 (No.0～9)

緯度で10等分 (No.0～9)

したメッシュ内(3次コード)での番号を意味し、あるメッシュの中で既存のボーリング資料があれば、その最終番号からの続き番号となることとなります。このため、新しく登録されるボーリングNoはMT(磁気テープ)入力のためのチェック時(今回の業務)に決められるので様式整理時に記入する必要はありません。記入ミスの多くはここに調査時における通し番号を記入しているのが殆どです。

4) 項目 ⑦ 位置(緯度、経度)

緯度、経度はあまり間違いはありませんでしたが、なかには経度が大幅に違っており1/25,000の地形図にプロット出来ず登録から削除された資料があったので記入の際には十分注意して下さい(調査場所の住所だけではプロット出来ない!!)。

5) 項目⑧～⑩までは概ね記入ミスはないが、項目⑩の室内試験内容と様式D(土質試験)の一致しない例が若干あった。

※ 図-1に様式Aを示すと共に上記の留意点と対照出来るように番号1)～5)で示してあります。

2. 2 様式B柱状図(地層区分)

この中でデータ番号、地層上限下限深度及び地質コードに関しては記入ミスはないが地質名の中で岩の場合、岩質名では地質コードの変換は出来ないので軟岩・風化岩、中硬岩及び硬岩で表示して下さい。

色調コード表中には茶色がありませんので褐色を使用すること。柱状図の同一層の中で色調が変化している場合はコードでの変換は出来ないので同一層で代表する色調をコード変換して記入して下さい。

2. 3 様式C標準貫入試験

標準貫入試験は最もミスの少ない様式です。数少ない記入ミスではデータ総数とデータ番号が一致しないものがありました。これは記入用紙が複数枚になったため転記する際の記入漏れ(N値の総数が少ない)ではないかと判断しました。

2. 4 様式D土質試験

一般事項(様式A)の中の項目⑩と一致しない事例が多かった。これも土質試験の一覧表からこの様式に転記する際のミスと思われる。

2. 5 様式E₁ (孔内載荷試験)、E₂ (現場透水試験)、E₃ (P波速度S波速度)

チェックしたデータの中では資料数が少ないためか目立った記入ミスの特筆するものはありませんでした。

記入が終わったシートは必ず一本のボーリング孔に対して次の順序で揃えるようにして下さい。バラバラにすると後で揃える際に紛失したり登録出来なくなる場合もあります。

- | | | | |
|---------------------|--------------------------|---|----------|
| 1) 様式A | 一般的事項 | } | ボーリング一本分 |
| 2) 様式B | 柱状図 (地層区分) | | |
| 3) 様式C | 標準貫入試験 | | |
| 4) 様式D | 土質試験 | | |
| 5) 様式E ₁ | 孔内載荷試験 | | |
| | E ₂ 現場透水試験 | | |
| | E ₃ P波速度・S波速度 | | |

以上チェック業務での気付いた点を列記しましたが、様式Aでの記入ミスが最も多くみられた。今後記入整理をなさる担当者の一助となれば幸いです。

一般的事項

項目	コーディング形式	情報の形態
一般的事項	① 調査作名	文字情報
	② 調査場所	文字情報
	③ 図面(縮尺)	①位置図の縮尺 ②平面図の縮尺
	④ 孔番	①調査孔数 ②調査孔番
	⑤ 整理番号	①西暦 ②組織コード ③資料番号
位置の情報	⑥ ボーリング番号	①1次コード(1/20万) ②2次コード(1/2.5万) ③3次コード(標準メッシュ) ④通し番号
	⑦ 位置(緯度・経度)	①緯度 ②経度
	⑧ 孔口標高	①孔口標高
内容の情報	⑨ 行政区域	①都道府県 ②市区町村
	⑩ ボーリングの方向等	①地質の種類 ②掘進方向 ③方位
	⑪ ハンマー用具・掘進長	①ハンマーの落下用具 ②掘進長
	⑫ 孔内水位	①孔内水位
	⑬ 室内試験内容	①比重 ②含水量 ③粒度 ④液性 ⑤塑性 ⑥密度 ⑦土軸 ⑧土軸 ⑨圧密
機関の情報	⑭ 原位試験内容	①標準貫入試験 ②孔内載荷試験 ③現場透水試験 ④孔内速度検層
	⑮ 発注機関	①大分類 ②中分類 ③小分類 ④細分類
	⑯ 調査目的	①調査目的 ②調査対象
機関の情報	⑰ 調査時期	①西暦年 ②月
	⑱ 受託者	文字情報

本文中 2.1 項
1) 項目④孔番参照

本文中 2.1 項
2) 項目⑤整理番号参照

本文中 2.1 項
3) 項目⑥ボーリング番号参照

本文中 2.1 項
4) 項目⑦位置(緯度、経度)参照

本文中 2.1 項
5) 項目⑧～⑬まで参照

図-1 様式A一般的事項における記入上の注意点